

第98回 全国安全週間

7月1日から7月7日（準備期間 6月1日から6月30日）

スローガン 「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」

昭和3年にスタートし、今年98回目を迎える全国安全週間。

この間、事業場では労使が協調して労働災害防止対策が展開され、この努力により労働災害は長期的には減少しているが、令和6年度では死亡災害は前年を下回る見込みではあるものの、休業4日以上死傷災害は前年同期より増加しています。

近年は、高齢労働者の増加などを背景として、転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害が増加しています。

更なる労働災害の減少を図る観点と多用化する世の中を考慮し、今回のスローガンが決められたのでしょ。

職場における熱中症予防が義務化 ～令和7年6月～

近年、職場における熱中症の死傷者は増加傾向になり、年間30人以上が熱中症で死亡しています。その原因の多くが初期症状の放置や対応の遅れとされています。

そこで、労働安全衛生規則が改正され、事業主に職場における熱中症対策の措置が義務づけられました。対象となる作業は、暑さ指数(WBGT)28以上又は気温31度以上の環境下で、継続して1時間以上又は1日当たり4時間を超え行われる作業です。

熱中症の自覚症状のある者や熱中症の恐れのある者を発見した者は、熱中症の重篤化を防止するために対応し、事業主には、その「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」を行うことが義務づけられました。

熱中症予防対策の一例は、次のようなものです。

